

茨城県立図書館で感じる気分

二川 恵

デジタル社会へと変化していく中で、図書館の利用形態にも変化が生じ、「場」としての図書館への注目が高まっている。「場」としての図書館が人びとにもたらすものとして「集中」「興味関心」「リラックス」「気分高揚」というような心理的効用をもたらすことが先行研究からすでに明らかとなっている。本研究ではさらに「集中」という気分焦點を当て、利用目的、利用場所、席を選ぶ理由、没入のしやすさからの影響があるのかを明らかにしたいと考えた。

研究方法として、茨城県立図書館利用者に対し質問紙調査を行い、どういった目的で図書館を利用し、どの席を多く使用するのか、またなぜその席を選び、どのような気分を感じているのか、さらに没入度の程度を把握し、分析した。

利用者が席を選ぶ理由は「静寂」「ある程度の活動性」「資料の近さ」の3尺度で捉えられることが明らかとなった。なぜこのように「静寂」に重きを置く利用者と「ある程度の活動性」に重きを置く利用者に分かれるのかについて、周りからの影響の受けやすさが関係するのではないかと考え、被影響性を測る尺度を用いて分析したが、数値としては「ある程度の活動性」が一番高い結果を示したものの、有意差が認められず、影響関係について明らかにすることはできなかった。席を選ぶ理由について、利用目的や利用場所への変化についても調べた結果、利用目的では「静寂」は勉強と読書、「ある程度の雑踏」は勉強、「資料の近さ」は本の貸借、調べ物、読書目的が多く、利用場所では「静寂」は窓際の一人席、「ある程度の活動性」では視聴覚ホール、「資料の近さ」ではグループ席とコーナーが高い結果となった。

感じる気分について、「集中」「知的的好奇心」「リラックス」の3尺度で捉えられることが明らかとなった。先行研究にあった「気分高揚」は因子相関の高さが関係し、今回の調査では他の気分に分れたものだと考えられる。利用目的からの影響は「集中」は勉強や読書、「興味関心」は、読書、本の貸借、調べ物、「リラックス」は読書目的の利用者が感じやすい気分であることが明らかとなった。利用場所別にみる変化としては、「集中」は視聴覚ホール、「興味関心」はコーナーで感じやすく、「リラックス」は場所ごとに有意な変化はみられないことが明らかとなった。席を選ぶ理由からの影響について、「集中」は「静寂」と「ある程度の活動性」「興味関心」は「資料の近さ」、「リラックス」は「資料の近さ」がそれぞれ中程度の相関があることが示された。外的没入度からの影響は、「集中」にのみ弱い正の相関がみられた。

(指導教員 歳森 敦)